

日中国交正常化25周年記念事業

日中合同文字文化研討会

—— 講演資料 ——

豊田五郎

日時 1997年8月19～20日
場所 中国・遼寧省瀋陽市
共催 日本・文字文化研究所
中国・遼寧省博物館

文字文化研究所

契丹小字に保存された中古蒙古語の痕跡

— 永福と春秋と數詞 —

豊田 五郎

一、はじめに

東アジアの未解讀の文字の主なものに契丹・女眞・西夏文字があり研究が進められている。

女眞文字には女眞館譯語という女眞語と漢語の對譯單語集・文例集があり解讀に役立ち、西夏文字には佛典・字典・番漢對譯單語集があり研究がはかどった。

ただ契丹文字には佛典・字典が全く発見されず、墓誌銘の契丹文と漢文を個々につき合わせてその音や意味を読み取るほかはない。

契丹文に漢語借詞が多く、特に契丹小字は聲韻を組み合わせた文字構成が多いので、原字の分析が或る程度成功している。私は契丹文に中古蒙古語の名残があると信じているが、その具體的の字例として、瀋陽とゆかりの深い慶陵哀冊文の中から、永福と春秋を選び試みに解讀してみよう。

二、永福について

田村實造・小林行雄京都大学グループ諸氏の名著《慶陵》1953年は道宗哀冊第6行・宣懿哀冊第5行中の 永 永 永 永 を永福陵と讀んだ。

村山七郎先生はその有名な論文《契丹字解讀の方法》(《言語研究》17-18号1951年3月掲載)中に次の考證をしている：

朝鮮總督府博物館藏鏡銘文の説明

(1)	解 讀	(1) s ^u (福)	(2) b ² n ² k ² (永)	(3) ɣ ^u n (宮)	(4) t ¹ l ¹ (鏡)
永	契丹〔原〕字	永	矢 木 二	今 木	太 上
(4) 今 永	突 厥 字	冰	父 𠂔 ㄣ	个 𠂔	介 上
(2)	意 味	s 福	b ² n ² k ² 永 遠 なる	g ¹ n ² 宮	t ¹ l ¹ 鏡
永					

(1)(2)は前述永福(陵)に當たる場所に出ている(尚羅福成《宣懿皇后哀冊文》滿洲學報第二参照)。

この解讀は原字の排列順序を無視した缺點があるが、従来中國での解讀工作が契丹小字(合成字)と漢文を比較對照して妥當な漢字を當てれば それでよいとしていたのに対し、村山説は之を原字に分解してそれぞれの音價を比定した點に創意がある。

劉鳳翥教授がその共著《内蒙古カラチン旗出土契丹小字銅鏡考釋》《考古》1982年第3期掲載に發表したカラチン旗永豊公社房身地発見の八角形銅鏡に、前掲朝鮮出土銅鏡と同様の4ヶの契丹小字を鑄出し、左下側に“寶坻官”の陰刻があった。彼は鏡文を壽長福徳と讀んだ。又同論文中に中國歷史博物館藏契丹小字壽昌錢銘文甲とバリン左旗文化館藏漢文鐵錢乙を紹介している：

(3) 甲、 <u>今</u> <u>和</u>	乙、 福
(4) <u>令</u> <u>奈</u> (1) <u>捺</u>	壽 德
<u>床</u>	長

それぞれ文字の排列は異なるが、一種の厭勝錢であって吉祥語を鑄てある。劉教授は甲を次の如く讀んでいる：

甲、 今和 壽 (上) $\frac{\text{si}}{\text{今}} + \frac{\text{an}}{\text{和}} = \text{sin}$ (壽昌の壽の意味)

床 長 (下) 永遠長久 (矣 仔 欠 奔 床 天長地久参照)

捺 福 (右) $\frac{\dot{\text{f}}}{\text{捺}} + \text{奈}$ 音不明 (羅に従い福の意)

令奈 德 (左) $\frac{\text{d}}{\text{令}} + \text{奈}$ 音不明 (鐵錢の德と同義)

乙は分行であり德福長壽 (右上下左) と讀む。

私は長壽と福德をそれぞれ熟語と考える。そこで朝鮮鏡と寶坻鏡を環讀 (上右下左) で長壽福德、乙錢文を環讀で福德長壽と讀むがよいと考える。(長 *möngke* 壽 SN 福 *qutuγ* 德 *doi*)

蒙古語で永遠長久を意味する言葉として蒙古文西寧王碑第7行に: *egüri urtu-da*があり、漢文では世々となっている。パスパ文聖旨碑では *mong' a* 永遠のがきまり言葉で、漢文對譯は長生となっている。ウイグル蒙古文聖旨碑でそれは *möngke* である。

私は 床 の對譯として聖なる言葉 *möngke* を選びたい。

次に契丹小字と漢文の兩墓誌伴出の際 捺 字が如何なる漢字に当たるかを調べよう。

耶律仁先墓誌第27—28行に清寧九年 (1063) 七月十九日の重元の亂の記載があり、叛亂者の名を次のように列挙しているが、その中で捺字は胡覲と對應する：

口 丰 斥 艾 宅 忝 矣 矢 $\frac{\text{今}}{\text{当}}$ 幹 ----- 矣 冬 丰 主 王 ----- $\frac{\text{令}}{\text{兩}}$ $\frac{\text{伏}}{\text{伏}}$ 圭 ...

此年七月十九日ニ 行宮 ----- 清寧皇帝 ----- 主 因 王 ...

----- 吉 丰 主 丞 又 主 付 乃 和 介 凡 火 圭 $\frac{\text{伏}}{\text{伏}}$ $\frac{\text{空}}$ $\frac{\text{空}}$ 圭 而 亦 兩 中 丙 丙 引

----- 叔 父 皇 太 叔 子 楚 國 王 涅 魯 古 二 大 □ 王 □ 陳 留 □

友 伴 公 捺 子 太 又 火 中 今 火 $\frac{\text{今}}{\text{空}}$ $\frac{\text{凡}}{\text{空}}$ 火 $\frac{\text{凡}}{\text{凡}}$ $\frac{\text{今}}{\text{今}}$ $\frac{\text{水}}{\text{水}}$ $\frac{\text{今}}{\text{今}}$ 一 及 化 $\frac{\text{水}}{\text{水}}$ $\frac{\text{今}}{\text{今}}$

知院胡覲中書令 □ 點檢ノ事知撒刺竹北院林牙溥古

これを《遼史》22道宗紀二及び114 逆臣傳下と對照して表を作るところである：

遼 史	小字仁先墓誌
卷22〔清寧〕九年…	此年
秋七月丙辰（十九日）	七月十九日ニ
如太子山、戊午	行宮
皇太叔重元與	叔父皇太叔〔註・李吉只〕
其子楚國王涅魯古	子楚國王涅魯古
及陳國王陳六	（二大王）陳留〔註・蕭孝友〕
同知北院樞密使事	知院
蕭胡覩	胡覩〔註・孝友ノ子〕
衛王貼不	中書令□？
林牙涅刺溥古	北院林牙溥古
114（耶律）撒刺竹……………	點檢ノ事知撒刺竹
改殿前都點檢……………	
首與重元謀亂	

最近遼寧省北鎮で出土した契丹小字耶律宗教墓誌に宗教が涅里衰相公蕭敵烈の娘を娶り男子二人女子二人を生んだが、次女胡覩古が大翁帳控骨里に嫁したことを述べている：

第21行 ^力出 ^出茶 ^又及 ^又及 ^又及 ^九次 ^丕丕 ^符符 ^穴穴 ^牙牙 ^当当
 第22行 ^力出 ^出茶 ^又及 ^又及 ^又及 ^九次 ^丕丕 ^符符 ^穴穴 ^牙牙 ^当当
 次 子 胡 覩 古 ハ 國 舅 大 翁 帳 控 骨 里 太 保 二 嫁 ス

漢文墓誌には：次日胡覩古適於國舅阿没郎君男控骨里太尉婦とある。

私は中古蒙古語を参照して人名の胡覩及び胡覩古はqutuγ 忽禿黑（秘史傍訳福神）に当たるものと考ええる。

秘史105 節：qutuγ e'ede 福神的門框
 張應瑞碑第40行：eqūri urtu-da ölġei qutuγ
 永遠 長久の 吉祥 幸福

従って契丹小字^力出^出茶は福の草書^福を變形したもので^力出と^茶に分割することなく一原字としてqutuγと讀むのが合理的である。そして永福はmongke qutuγ 讀んだがよい。更に《仁懿哀册》第5行末字^力出^伏は抄寫の誤りで、^力出^伏即ち^力出^茶qutuγ + ^伏inと考えられるが、それは皇后の父蕭孝穆の契丹名胡獨董と符合する。

三、春秋について

張琳撰漢文《宣懿哀册》第31-2行を見ると：

樹蕭蕭兮秋戀 樹は蕭々と淋しい秋の戀
 草萋萋兮春渚 草は萋々としげる春の渚
 皆從來巡幸之地 皆從來巡幸なされた地
 盡伊昔宴遊之所 盡く昔宴遊なされた地

このように秋山と春水が對仗句として用いられている。これに對應する契丹小字《宣懿哀册》第25行の詩句には必ず春秋の二字を含んでいる筈である。《契丹小字研究》では：

介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介 介
 寒露日 四時

と5字のみ傍譯している。介は介 + 介であり前者は《仁懿哀册》第4行主聖介（皇太后）の介でありyouと讀みうる。後の介は山路廣明氏が尤安（元）を尤安(yu-an)と解讀して以來anと讀むのが通説で《契丹小字研究》は介を寒(han)と讀んだのである。毛非安を四時とすることには異論がなく陳述先生は1973年これをdörben čag hemeと讀んだがまだ定説ではない。

1994年11月私は《契丹小字の四季の稱呼について》なる小稿を書き、介字を春と定めたがその根據は次の如くである。

《故耶律氏銘石》第13行に次の項がある：

天慶五年春行宮北遷□正月十一日二齡三十五デ

又《仁懿哀册》第11行にこうある：

大康二丙辰年三月丙辰朔六日辛酉行宮春捺鉢

當時の曆の春は正月二月三月であった。そこで私は介を春と讀んだのである。

又私は介をurと讀むべきではないかと考えた。介は前述の皇太后の後youであり、介をurとすればyou + ur > youur (ダブル語春haor) で蒙古語春qabur 合不兒に近い。

介春の對仗字は介秋と思われる。《契丹小字研究》解讀によると原字介はn、乃はamである。

{ 寧は 介 n + 用 ing → ning、内は 介 n + 火 ui → nui
 三は 介 s 有 a 乃 am → sam 監は 凡 g 才 ia 乃 am → giam
 介をurとすればn + am + urで蒙古語秋namur 納木兒と一致する。

《宣懿哀册》第30行に次の句がある：

矣 介 矣 矣 ^{公乃}_公

1994年10月劉鳳翥教授は太原での中國民族古文字研究會發表<博州防禦使墓誌銘の解讀>に於いて 矣 をming千、矣 をminggan 猛安と解讀した。矣 字はすでに王弘力<契丹小字墓誌研究>《民族語文》1986年第4期載により tum 萬と解讀されている。介が春 ^{公乃}_公が秋であれば上掲の句は千春萬秋ming ʒour tumen namurとなるがこれは漢語の千秋萬歳と同義であろう。

漢語	契丹讀音	蒙古語	ダフル語	女眞語
春	<u>介</u> ʒou-ur	合不兒	haor	
秋	<u>矣</u> n-am-ur	納木兒	namar	
面	<u>矣</u> ni'-ur	你兀兒	niadam	
中	<u>矣</u> d-ur-da	敦 答	duanda	杜里刺
國	<u>矣</u> ^兀 _矣 ^兀 _矣 g-ur-n	◎兀魯思	gurun	國 倫
※控骨里	<u>矣</u> ^兀 _矣 ^兀 _矣 k-ung-ur	晃豁兒	kongoor	

※耶律宗教墓誌第22行人名でqonʒor 栗毛馬の意

◎遼史は契丹語國を國阿輦とするが阿を衍字とすれば國輦となり國倫に近い。

四、數詞

蒙古文語の基本數詞はこうである：

1. nige 2. qoyar 3. ʒurba 4. dörbe 5. tabu 6. ʒirʒuʒa 7. doloʒa 8. naima
9. yisü

母音で終わる數詞は、他の語詞と連絡する場合 n を附して発音する。序數詞は基本數詞に-duʒar, -düg ger ……番目を附して作る。例えば：

ʒurbaduʒar (3番目), dörbedüger (4番目),

しかし元代蒙古語、例えば西寧王折都碑ではʒutuʒar (3番目), dötüger (4番目) であり、時代によって変化があることがわかる。

そこで蒙古語數詞の語根を調べると：

服部四郎<蒙古語>1939 (創元社)：

3. Gur 4. dör 5. tab(u) 6. ʒirGu 7. dolo

野村正良<蒙古語>1955 (研究社) :

2. ĵir- 3. Gur- 4. dör- 5. tab-6. ĵirGu- 7. dal- 8. na-

millar<日本語とアルタイ語>1981 (大修館)

2. ĵir- 3. ĵu- 4. dör- 5. ta- 6. ĵir(2)+ĵu(3) 7. dal-

私は元代より数百年古い契丹小字序数詞の語根を根據として次の如く考える :

(私は1987年6月<滿蒙諸語から見た契丹小字数詞の解讀>なる一文を書き、ここでは一部補正した。)

又劉鳳翥教授は第35回世界アルタイ学会議で(契丹小字解讀四探) 中同じく契丹語数詞について述べている(1992年9月台北にて開催)。

		豊田		劉鳳翥
2	<u>朮化</u>	ĵir-	<u>丕</u>	cerə
3	<u>𠵹化</u>	ĵur-	<u>包</u>	ĵərə
4	<u>朵化</u>	dör-	<u>屯</u>	tərə
5	<u>合亦</u>	tab-	<u>𠵹</u>	t'au
6	<u>灰</u>	ĵirĵu-	<u>灰</u>	
7	<u>穴丹</u>	dolo-	<u>丹</u>	dəro

*2について

序数詞第二・二番目は 朮化 或いは 朮化 と書く。朮 は蒙古語の duġar、ダフル語 daar/deer の頭字 dらしく、朮 は c のようで、滿洲語の ci に当たり日本語のめ(番とか号)同様順序を呼ぶ語尾助詞である。漢文と對比すると、例えば耶律宗教墓誌(漢文)に次の人名がある :

“國舅突德太師”これに對應する契丹小字は 朮 及 朮 朮化 朮 朮 となり、突は ĵir 即ち突厥(チュルクツ)の tür で、朮 は德 = 朮 百 dei で突德は ĵirde である。

又蕭仲恭墓誌の主人公仲恭の意味は“二番目の恭”で契丹小字では 朮化 ĵir 朮 朮 cein を合成して 朮化 と書く。《遼史》卷29天祚紀三に“護衛太保朮者”が出現した《金史》卷82蕭仲恭傳に“蕭仲恭本名朮里者”とあるが ĵirce は求者或いは朮里者の對音である。

ĵir は蒙古語 ĵirin okid(二人の娘)など女性雙數としてのみ秘史に残っている。これについて小澤重男教授は ĵirin が二の古形で後に qoyar に取って替わられたものとしている。(モンゴル語における「2」を意味する語 ĵirin と qoyar について:《言語研究》第45号1964年3月)。

*3について

序数詞第三・三番目は 朮化 或いは 朮化 と書き、朮 朮 朮 朮 と書く。第1原字の 朮 は漢語混を表す 朮 朮 朮 の第1原字と同じく ĵ であるから 朮化 は ĵ+r であって ĵur と一致する。

*4について

序数詞第四・四番目は ^{空化}茶・^{空化}当 又は ^{令化}与 と書く。空・令 は同音字である。空 は漢語徳を表す 空百 dei の d で 空化 は d+r であって dör- と一致する。

*5について

序数詞第五・五番目は ^{令亦}反^{令亦}扎 又は ^{令亦}反^{令亦}扎 と書く。第1原字 令 は漢語通を表す 令太 tung- の t であり第2原字 亦 は不 bu と讀まれ 令亦 は t+b で tab と一致する。契丹小字の數字 禿 (5) が tau ということは《遼史》卷53禮志六に“討五”とあり、禿 を首原字とする 禿^禿力 は“陶里兎也”と記されることでもわかる。蕭仲恭墓誌第9行に“一十^禿禿^禿力”との句があるが直譯すると北西招討司であって、禿 は爪 jau (百)、禿 は討 tau (五) で合わせて招討 jautau と讀むのである。

*6について

Millerの《日本語とアルタイ諸語》p.277 を見ると、原蒙古數詞 jirγu (六) が jir (二) + γu (三) で成り立つことは1955年にすでにPoppe氏が指摘していたという。契丹小字序数詞第六・六番目は 茶 と書かれるが 次 を jirγu と讀んでよい。

*7について

劉鳳翥教授は海棠山墓誌殘石から序数詞第七・七番目に当たる 次 の字を發見し解讀した。前掲論文によるとこうである：

“次 は 斤 に等しく意味は七である。契丹小字の故耶律氏銘 (石) の第2行に 次 令 の二字があり、漢語借用詞大夫の音譯である。従って原字 次 の音價は d であるとわかる。韃靼館華夷譯語數目門によると、明代蒙古語七の音は朶羅安で、首字朶の讀音は原字 次 の音價と相符合し、我々は従って原字 次 の音價を羅と推測できる。我々は従って契丹語中七の音を [daro] と推測できる。”

私も第七の語根 次 を dolo- と解釋する。

基本數詞

契丹小字で基本數詞を表すものに次の19字がある：

毛 丕 包 乇 禿 次 斤 丕 禿 毛 丁 乙 乂 冂 了 禿 矣 矣

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 廿 卅 五 六 七 八 百 千 萬
十 十 十 十

前述の如く序数詞が基本數詞に -duxar, -düger を附して作るものならば、契丹小字序数詞から語尾の 茶 当 を除くと基本數詞となる筈で、ここで數詞の語根と認めたものはそのまま契丹語の基本數詞と考えてよいであろう。

1986年第4期《内蒙古大学学报》に即實は<契丹數詞の音讀に関する問題>と題する論文を書き、始めて序数詞を利用して基本數詞の讀み方を調べる方法をとりこう考えた：

包 (三) kurpu → 茶^{3化} yurukui ~ 当^{3化} yurukun (第三)

屯 (四) turpu → 茶^{4化} turkui ~ 当^{4化} turkun (第四)

劉鳳翥教授も1992年前述の同趣旨の論文を書き、これを受けて呂振奎は1995年第4期の《民族語文》に〈海棠山契丹小字墓誌殘石補釋〉を書いて同じ見解を示している。:

“すでに契丹語中の序數詞が單純數詞に附加成分を連接して構成されるものであり、もし序數詞の附加成分を取り去れば、のこるのは單純數詞である。”

そこで彼は2 圣 即ち 茶化 をtjiri、3 包 即ち 3化 をyari、4 屯 即ち 4化 をtariと讀む。

五、まとめ

《契丹小字研究》1985年は契丹小字中の漢語借詞の解讀を主として成果を挙げた。本文は契丹小字中本來の契丹語に保存されている中古蒙古語の痕跡を個々に探し出そうとした。例えばこれまで意味が福であることは推定されたが3茶の讀音が不明であったのを、諸墓誌中より3茶字と對應する人名胡覲、胡覲古をつきとめ、これをqutuγと音譯し、この字は才と茶に分割するものでなく、漢字福の草書𠄎に由来すると考えた。又鏡銘文庚午利3茶令茶の吉祥語を環讀で長mongKe壽SN 福qu tuγ 徳doi と讀むべきであるとした。SNの讀音は後考を俟つ。

私は次に契丹小字原字奕をurと讀み改めて

合 you-ur 春 (合不兒)、納 n-am-ur 秋 (納木兒)、
你兀兒 ni'-ur 面 (你兀兒)、敦答 d-ur-da 中 (敦答)、
國 g-ur-un 國 (國倫)、控骨里 k-ung-ur 控骨里 (晃豁兒)

と新たな讀音を與え、更に吳敏 及 察 千春萬秋ming Youur tümen namur を解讀して中古蒙古語の痕跡を明らかにした。

最後に契丹小字には基本數詞のほか約80個と單体字があり、これを單音節とのみ考えることは不可能である。同じ多音節の蒙古語と契丹語との深い關係を解明したく試みにこの一文を作った。

契丹小字の序數詞を手がかりとして若干の基本數詞を解讀することは、契丹語が蒙古語系に屬することを證明する一助となるだろう。

その結果は契丹語の數詞が明代蒙古語より更に原始的段階にあることを示している。

	語根	契丹音	華夷譯語
2	<u>茶化</u> jir-		
3	<u>3化</u> yur-	<u>包</u> 忽兒	→ 忽兒班
4	<u>4化</u> dör-	<u>屯</u> 朶兒	→ 朶兒邊
5	<u>令茶</u> tab-	<u>毛</u> 討	→ 塔莽
6	<u>才</u> jirxu-	<u>才</u> 只兒瓦	→ 只兒瓦安
7	<u>六茶</u> dolo-	<u>斥</u> 朶羅	→ 朶羅安

(註) 2の基本數詞圣が茶化jirかどうかについてはqoyar との兼ね合いがあり後考を俟つ。

契丹小字所保留下來的中古蒙古語之痕跡

- 永福, 春秋, 數詞 -

[日本] 豐田五郎

一 前言

東亞未曾解讀的文字有契丹, 女真, 西夏文字。此項研究正在開展進行。

在女真文字中, 有被稱作為女真館譯語的女真文和漢文對譯的單詞集, 例句集。在西夏文字中有佛典, 字典, 番漢對譯單詞集等, 它們在解讀過程中起到了很大作用, 并推動了此項研究的進展。

但是, 契丹文字中的佛典, 字典還沒有完全被挖掘出來, 只好把墓誌銘的契丹文同漢文對照結合起來進行音和詞意的解讀, 除此之外別無他法。

契丹文字中有很多漢語借字, 特別是契丹小字以聲韻相結合的構成形式更多, 原字分析在某種程度上來說是成功的。我相信在契丹文字中有中古蒙古語的遺跡, 做為具體的例子, 我從與瀋陽有因緣的慶陵哀冊文中選出了永福和春秋來進行嘗試性的解讀。

二 關於永福

田村實造, 小林行雄為首的京都大學研究小組的諸位先生之大作《慶陵》1953年中把道宗哀冊第6行, 宣懿哀冊第5行的 𐰺𐰺𐰽 解讀成永福陵。

村山七郎先生在其有名的論文〈契丹字的解讀方法〉(《言語研究》17-18號1951年3月刊載)有如下考証:

朝鮮總督府博物館藏鏡銘文之說明

(1)

𐰺

(4)

𐰺𐰽

(3)

𐰺𐰽

(2)

𐰺𐰽

解 讀	(1) ^u s (福)	(2) ^e b ^a n ³ k ^u (永)	(3) ^u ɣ ^u n (宮)	(4) ^o t ^o l ⁱ (鏡)
契丹〔原〕字	𐰺	𐰺𐰽𐰺	𐰺𐰽	𐰺𐰽
突厥字	𐰺	𐰺𐰽𐰺	𐰺𐰽	𐰺𐰽
意義	s 福	b ^a n ³ k ^u 永遠	g ^u n ² 宮	t ^o l ⁱ 鏡

(1)(2)是在前面所提到的永福（陵）那個地方被發現的。（尚羅福成《宣懿皇后哀冊文》參照滿州學報第二）

此解讀在忽視原字排列順序上存在著不足，但是，與歷來在中國的解讀工作中把契丹小字同漢文進行比較對照從而找出一個適當的漢字相比較來說，村山之學說把它分解成原字，把每個音值進行分析和判定，從這一點來說是很有新意的。

劉鳳翥教授與他人共同寫作的〈內蒙古喀喇沁旗出土契丹小字銅鏡考釋〉登載在《考古》1982年第3期，在文中揭示了在喀喇沁旗永豐公社房身地發現的八角形銅鏡與以前揭示的在朝鮮出土的銅鏡有同樣的四個契丹小字，并在左下側刻有“寶坻官”的陰刻字樣，他把鏡文解讀成壽長福德^{“si” “ɔn” “d” “da”}，又在同一論文中介紹了中國歷史博物館所藏的契丹小字壽昌錢銘文（甲）和巴林旗文化館所藏的漢文鐵錢（乙）：

甲	(3)	乙	福
	全和		
	(4)	(2)	壽 德
	全太	捺	
	(1)		長
	求		

每個文字的排列雖有所不同，但它們都是一種鑄有吉祥語的厭勝錢。劉教授把（甲）解讀如下：

甲， 全和 壽（上） 全 + 和 =sin（壽昌的壽）
 求 長（下） 永遠長久（參照天長地久）
 捺 福（右） 才 + 捺 音不明（從羅而取“福”之意）
 全太 德（左） 全 + 太 音不明（與鐵錢之德同意）

乙為分行，所以解讀成德福長壽（右上下左）。

我認為長壽和福德分別為常用詞組。在此把“朝鮮鏡”和“寶坻鏡”環形地（上下右左）解讀為“長壽福德”，把“乙錢文”環形地解讀為“福德長壽”。我認為這種讀法是合乎道理的。（長mōngke壽SN 福gutuy德doi）

蒙古語表示永遠長久的詞在蒙古文西寧王碑第七行有：“egūri urtu-da”，在文中為“世世”。八思巴文聖旨碑中有“mojka永遠”一詞，為約定俗成的表現方法。漢文對譯為“長生”。回鶻蒙古文聖旨碑為mōngke。

我把 求 做為對譯，從而想選擇出神聖之詞mōngke。

下面我想查明契丹小字和漢文兩墓誌中同時出現的 捺 字相當于漢文中的什麼字。

在耶律仁先墓誌第27—28行有清寧九年（1063）七月十九日的“重元之亂”的記載，如下列舉了叛逆者的名字。其中捺 字胡覩相對應：

口 辛 屏 艾 宅 禾 矣 矣^令 任 糝^令 … 矣 冬 本 主 王 … ^令 兩 伏 矣 …

此年七月十九日行宮…清寧皇帝…主因王…

… 志 辛 主 聖 又 志 丹 乃 來 令 凡 火 矣^伏 矣 矣 矣 矣 志 而 亦 雨 中 丙 丙 引
… 叔 父 皇 太 叔 子 楚 國 王 涅 魯 古 二 大 口 王 口 陳 留 口

友 伴 公 孫 子 太 又 火 中 用 令 火 令 交 凡 文 火 居 水 令 系 令 兩 伏 矣 …
一 及 化 矣^令 矣

知院胡覲中書令口點檢事知撒刺竹北院林牙溥古
把它和《遼史》22道宗紀二以及114逆臣傳下相對照，制成下表。

遼史	小字仁先墓誌
卷22〔清寧〕九年…	此年
秋七月丙辰（十九日）	七月十九日
如太子山，戊午	行宮
皇太叔重元與	叔父皇太叔〔注李吉只〕
其子楚國王涅魯古	子楚國王涅魯古
及陳國王陳六	（二大王）陳留〔注蕭孝友〕
同知北院樞密使事	知院
蕭胡覲	胡覲〔注孝友子〕
衛王貼不	中書令口？
林牙涅刺溥古	北院林牙溥古
114（耶律）撒刺竹……	點檢事知撒刺竹
改殿前都點檢……	
首與重元謀亂	

最近在遼寧省北鎮出土的契丹小字耶律宗教墓誌有如下記載：宗教娶涅里哀相公蕭敵烈的女，有二男二女，次女胡覲古適於大翁帳控骨里婦。

第21行 和化 符乃 第22行 捺 ^{力止} 出 不 及 及 女 和 ^{凡 次 聖 符} 六 平 矣 矣 矣

次子 胡覲古於國舅大翁帳控骨里太保適嫁

漢文墓誌上有著：“次日胡覲古適于國舅阿沒郎君男控骨里太尉婦”的記載。

參照中國古代蒙古語，我認為人名胡覲及胡覲古相當于qutu^{忽秃黑}（秘史旁譯為福神）。秘史105節：qutu^eede福神的門框
張應瑞碑第40行：

egüri urtu-da öljei qutu
永遠 長久的 吉祥 幸福

因此，契丹小字 捺 就是福字草書 福 的變形，所以才和奈是不可分割的，做為一個原有文字把它讀解成qutu^{忽秃黑}是合理的。另外把永福讀做成mōngke qutu^{忽秃黑}為好。《仁懿哀冊》第5行最后一字的捺為抄寫之誤，所以可以認為 捺 即是 捺 qutu^{忽秃黑}+伏 in，這就與皇后之父蕭孝穆的契丹名胡獨董相吻合。

張琳撰寫的漢文《宣懿哀冊》第31-2行中使用了秋山與春水的對仗句：

樹蕭蕭兮秋巒
草萋萋兮春渚
皆從來巡幸之地
盡伊昔宴游之所

在與此相對應的契丹小字《宣懿哀冊》第25行的詩句裏也必然會有春秋二字。在《契丹小字研究》中，

介安 ^{見去天矣伊秋} 公乃 ^{列進今矣} 在 ^{毛非安矣又水} 寒 ^{露日} 四時 ^{後物}

只有在這5個字旁加有注譯。介安是介+安，前者是《仁懿哀冊》第4行主祭女（皇太后）的介，應讀成jou。後者的安是在被山路廣明氏把尤安（元）讀成為尤安（yu-an）以後，普遍讀解為an。《契丹小字研究》則把介安讀成寒（han）。把毛非安做為四時雖無異議，陳述先生1973年把它讀成dörben çaj heme，但此讀法至今尚未定論。

1994年11月拙著《關於契丹小字的四季的稱呼》中，把介安字做為春的根據如下：

《故耶律氏銘石》第13行有如下字句：

天 ^天 年 ^年 春 ^{介安} 行 ^及 宮 ^一 北 ^乃 遷 ^於 正 ^月 十 ^一 日 ^於 齡 ^三 十 ^五 於

另外在《仁懿哀冊》第11行是這樣的：

大 ^今 康 ^丙 二 ^月 丙 ^辰 年 ^三 月 ^丙 辰 ^朔 六 ^日 辛 ^酉 行 ^宮 春 ^{介安} 捺 ^鉢

當時農歷的春為正月，二月，三月。所以我把介安解讀為春。

還有我認為是否應該把安讀成ur。介是前面所提到的皇太后的后字，即jou，如果把安讀成ur的話，那么jou+ur>your（達斡爾語的春之意，即haor）這樣就近似于蒙古語春的讀音qabur（合不兒）

介安 春的對仗字，普遍被認為是 ^{公乃} 秋字。根據《契丹小字研究》的解讀認為：原有字公為n，乃為am。

寧是公 n+同 ing → ning， 內是公 n+火 ui → nui
三是今 s 为 a 乃 am → sam，監是凡 g 才 ia 乃 am → giam

如果把安讀為ur的話，n+am+ur便同蒙古語的秋字（namur納木兒）相一致。

《宣懿哀冊》第30行有以下字句：天 ^{介安} 及 ^{公乃}

1994年10月劉鳳翥教授在太原召開的中國民族古文字研究會上發表的《博州防禦使墓誌銘的解讀》中，把天解讀成為千（ming），把天采解讀成為猛安（minggan）。及字早在《民族語文》1986年第4期刊載的王弘力《契丹小字墓誌研究》中解讀為tun萬。如果介安是春，公乃是秋的話，那么上述句子就應是千春萬秋

ming four tümen namur。這就與漢語的“千秋萬歲”是同意義的。

漢語	契丹讀音	蒙古語	達斡爾語	女真語
春	you-ur	合不兒	haor	
秋	n-am-ur	納木兒	namar	
面	ni'-ur	你兀兒	niadam	
中	d-ur-da 敦	敦 答	duanda	杜里刺
國	g-ur-n	◎ 兀魯思	gurun	國 倫
※控骨里	k-ung-ur	晃豁兒	kongoor	

※在耶律宗教墓誌第 2 2 行人名中，qonyor 為棕毛馬之意。

◎遼史中把契丹國語讀為國阿鞏，如果阿字是衍字的話，那么就應成為國鞏，就近似于國倫二字了。

四 數詞

蒙古文語中的基本數詞是這樣的：

1, nige 2, ʔoyar 3, ʔurba 4, dörbe 5, tabu 6, ʔiryya
7, doloʔa 8, naima 9, yisü

以元音結尾的數詞在與其他詞語相聯結時加以 n 來進行發音。序數詞在基本數詞 duʔar, -düger……后加以〔第… (位)〕來表示。例如：

ʔyrbaduʔar (第三), dörbedüger (第四)。可是我們通過元代蒙古語一例如西寧王忻都碑就可清楚地看出由于時代的不同, ʔutuʔar (第三), dötüger (第四) 的表現方法是有變化的。

在此我就蒙古語數詞的詞干進行一下比較：

服部四郎〈蒙古語〉1939 (創元社)：

3, Gur 4, dör 5, tab(u) 6, ʔirGu 7, dolo

野村正良〈蒙古語〉1955 (研究社)：

2, ʔir-3, Gur-4, dör-5, tab-6, ʔirGu-7, dal-8, na-miller〈日本語與阿爾泰語〉1981 (大修館)：

2, ʔir-3, ʔu-4, dör-5, ta-6, ʔir(2)+ʔu(3) 7, dal-

我以比元代早數百年的契丹小字序數詞的詞干為根據如此認為：

(我于1987年6月寫有〈從滿蒙諸語所見契丹小字數詞的解讀〉一文，在這裏進行了一部分補充訂正)另外，劉鳳翥教授在第35屆世界阿爾泰語學術會議上的〈契丹小字解讀四探〉中就契丹語數詞有相同的論述。(1992年9月于台北)

		豐田		劉鳳翥
2	𠤎化	ȳir-	𠤎	cerə
3	𠤎化	ȳur-	𠤎	ɣərə
4	𠤎化	dör-	𠤎	tərə
5	𠤎化	tab-	𠤎	t'au
6	𠤎	ȳıȳu-	𠤎	
7	𠤎	dolo	𠤎	də ro

關於二

序數詞第二，第二位寫為^{𠤎化}𠤎 或者^{𠤎化}𠤎。𠤎像蒙古語的durar,達斡爾語的daar/deer字頭的d, 𠤎像c一樣，相當于滿語的ci,也相當于被稱做表示同樣順序的日語詞尾助詞のめ(第…位、第…號)。與漢文相對比、在耶律宗教墓誌中(漢文)以下人名;與“國舅突德太師”相對應的契丹小字為^{力立}𠤎^{又及}𠤎^{𠤎化}𠤎^𠤎𠤎,突^𠤎ȳir即突厥的tūr^𠤎即是德=𠤎dei,突德即是ȳirde。

另外，蕭仲恭墓誌的主人公仲恭的意思就是“第二位的恭”，而契丹小字就是把^{𠤎化}ȳir和^{𠤎化}𠤎^𠤎合在一起寫成^{𠤎化}𠤎。在《遼史》卷29天祚紀三裏有“護衛太保^𠤎者”的字句，而在《金史》卷82蕭仲恭傳裏又有“蕭仲恭本名^𠤎里者”那么，ȳirce就是^𠤎者或^𠤎里者的對音。

ȳir在蒙古語只是做為表示女性雙數的表現方法ȳirinokid(兩個女孩)等等，殘存在秘史中。關於這一點，小澤重男教授認為：ȳirin是“二”的古語形式，逐而由qoyar取而代之。(關於在蒙古語中表示〔二〕的詞ȳirin和qoyar,見《言語研究》第45號1964年3月)。

關於三

序數詞第三，三位寫成^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}和^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}，或也寫成^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}和^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}。因為第1原字的^{𠤎化}𠤎是表示漢語“混”字的^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}yon的第1原字相同的ȳ,所以^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}就應當是ȳ+r,這樣就同ur一致了。

關於四

序數詞第四，四位寫成^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}或^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}。𠤎,𠤎是同音字。𠤎是表示漢語“德”的^{𠤎化}𠤎^{𠤎化}dei的d, 𠤎化是d+r,這就與dör一致。

關於五

序數詞第五，五位寫成^{今亦}反^{今亦}或^{今亦}反^{今亦}。第1原字的^{今亦}是表示漢語“通”字的^{今亦}令太 tung-的t，第2原字的^{今亦}讀為“不”bu，^{今亦}令亦 是t+b，這就同tab相一致。契丹小字的數字^{今亦}𠄎（五）讀為tau，這在《遼史》卷53禮志六中有“討五”的字樣，也使我们了解到把^{今亦}𠄎做為頭一個原字的^{今亦}𠄎也“以陶里兔也”的形式有所記載。蕭仲恭墓誌第九行裏有一十^{今亦}𠄎^{今亦}𠄎字句，如果直譯的話，就是“北西招討司”，^{今亦}𠄎是“爪”jau（百），^{今亦}𠄎是“討”tau（五），二者合一而讀為“招討”即jau tau。

關於六

在miller的《日本語和阿爾泰諸語》第277頁中有原蒙古數詞jiru（六）是由jir（二）+ru（三）所構成的一論述，可是就此，早在1955年poppe先生就曾提出過這一觀點。契丹小字序數詞第六、六位寫成^{今亦}𠄎^{今亦}𠄎 把^{今亦}𠄎 就可以讀成jiru。

關於七

劉鳳翥教授從海棠山墓誌殘石中發現了相當于第七、七位的^{今亦}𠄎字并加以解讀，引用上述論文如下：

“^{今亦}𠄎 等同于^{今亦}𠄎，于意為〔七〕。契丹小字〈故耶律氏銘〉第二有^{今亦}𠄎^{今亦}𠄎^{今亦}𠄎 二字，為漢語借詞〔大夫〕之音譯，從而得知原字^{今亦}𠄎 的音值為(d)，據韃靼館《華夷譯語》數目門，明代蒙古語〔七〕音〔朵羅安〕。首字〔朵〕的讀音與原字^{今亦}𠄎 的音值相符合，我們從而可以推測原字^{今亦}𠄎 的音值為〔羅〕。我們從而可以推測契丹語中〔七〕音(dəro)。”

我也把第七的詞干^{今亦}𠄎 解釋為dolo。

基本數詞

契丹小字來表示基本數詞的有如下19個字：

𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 廿 卅 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 百 千 萬

如前所述，如果序數詞是在基本數詞上附加-dujar、-düger而構成的話，那麼把契丹小字序數詞去掉詞尾^{今亦}𠄎、^{今亦}𠄎就應該成為基本數詞，被公認為是數詞詞干的，在這里就可把它認為是契丹語的基本數詞。

在1986年第4期《內蒙古大學學報》中，即實以〈關於契丹數詞的音讀〉為題，發表了一篇論文，提出採取開始利用序數詞來查找基本數詞讀法的觀點，例如：

包(三) kurpu → ^{引化}𠄎^𠄎 yurukui ~ ^{引化}𠄎^𠄎 yurukun (第三)

(四) turpu → ^{引化}𠄎^𠄎 turkui ~ ^{引化}𠄎^𠄎 turkun (第四)

劉鳳翥教授也在1992年寫有與前述論文具有相同觀點的論文，受此影響，呂振奎在1995年第4期的《民族語文》中，發表〈海棠山契丹小字墓誌補釋〉一

文，表示了相同見解：

“既然契丹語中的序數詞是由單純數詞連結附加成分構成，倘若把序數詞的附加成分去掉，剩下的則為單數詞。”

因此，他把 2 𠂔 即 𠂔化、把 3 包 即 𠂔化、把 4 𠂔 即 𠂔化 分別讀成：tʃiri、ɣəri 和 tɑri。

五 結論

《契丹小字研究》1985年以契丹小字中的漢語借詞的解讀為主取得了一定的成果。本文試圖一個個地找出一些保留在契丹小字中的原有契丹語的中古蒙古語的痕跡。例如把至今只是根據意義推論為“福”而讀音不明的 𠂔 依據諸墓誌探找出與 𠂔 相對應的人名胡者兒、胡覩古，把它音譯為 qutuɣ，並判斷此字是 𠂔 和 𠂔 不可分割的、是由漢語福字的草書 𠂔 演變而來的。同時也認為應該把鏡銘文 𠂔 和 𠂔 的吉祥語環狀解讀為“長” mǒngke、壽 SN、福 qutuɣ、德 doi。SN 的讀音待以後考證。

其次，我把契丹小字原字 𠂔 改讀為 ur，並給與 𠂔 you-ur 春（合不兒）、𠂔 n-am-ur 秋（納木兒）、𠂔 ni³-ur 面（你不兒），𠂔 d-ur-da 中（敦答）、𠂔 g-ur-un 國（國倫）、𠂔 k-ung-ur 控骨里（晃豁兒）新的讀音，進一步解讀 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 千春萬秋 ming youur tümen namur，從而解明了中古蒙古語的一些遺跡。

契丹小字中除基本數詞外，還大約有 80 個單體字，把它認為單音節是不可能的。此文試圖解明多音節的蒙古語同契丹小字的密切關聯而寫作的。

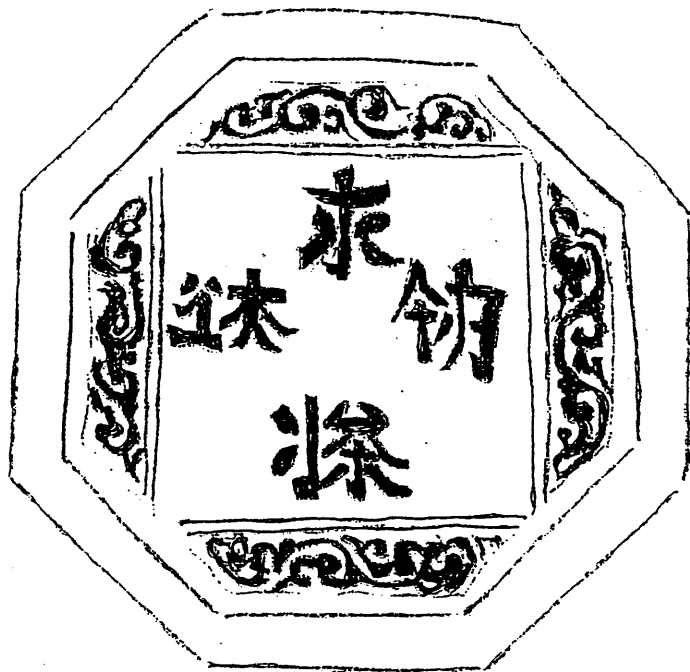
把契丹小字的序數詞做為第一手材料來進行若干基本數詞的解讀，這對證明契丹語從屬蒙古語來說，能起到助一臂之力的作用。

其結果表明：與明代蒙古語相比較，就可以看出契丹語數詞早就原始性地存在了。

詞干	契丹音	華夷譯語
2 𠂔化	jir	
3 𠂔化	ɣur-	包 忽兒 → 忽兒班
4 𠂔化	dör-	𠂔 朵兒 → 朵兒邊
5 𠂔化	tab-	𠂔 討 → 塔莽
6 𠂔	jirju-	𠂔 只兒瓦 → 只兒瓦安
7 𠂔	dolo	𠂔 朵羅 → 朵羅安

（注）關於 2 的基本數詞 𠂔 是否是 𠂔化 jir，它與 qoyar 有何關聯，待以後考證。

德姑長款鍊
 鋤 鋤 鋤 鋤
 宅 枝 煥 帆 鋤 券



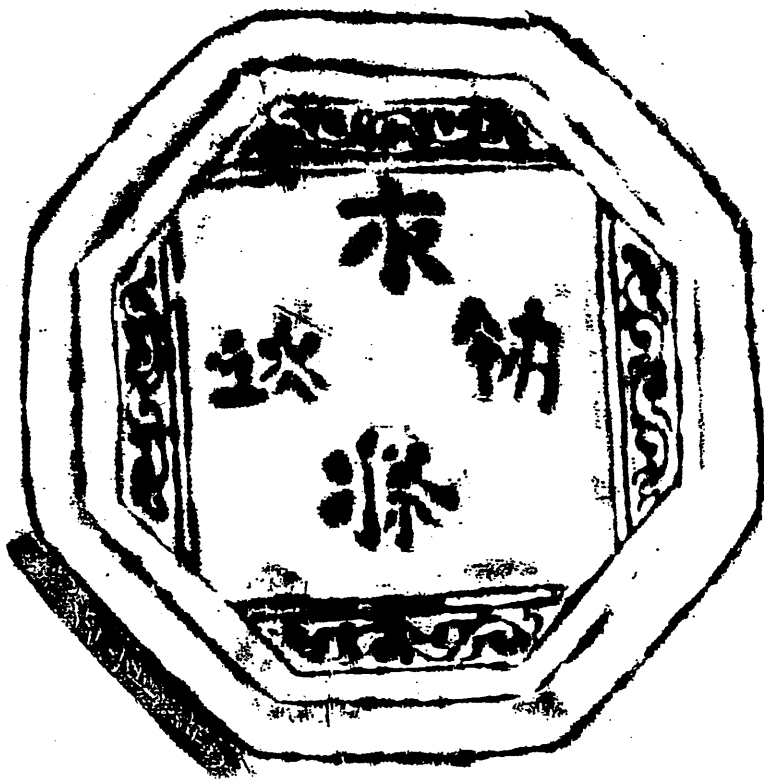
朝鮮八角鏡 摘自「遼陵石刻集錄」

春 露 日 □
 秋 □ □ □
 四 時 □ □ □



壽昌錢 摘自「契丹小字研究」

千 春 萬 秋
 笑 鍊 及 鋤 券



契丹小字 寶坻鏡

- | | | | | |
|---|----|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------|---|
| 1 | 五年 | 節度使
節度使
三年
五年 | 毛挾 | 1 |
| 2 | | 聖欽
聖欽
聖欽
聖欽
聖欽
聖欽 | 聖欽 | 2 |
| 3 | | 既三
九月
元近侍 | 元 | 3 |
| 4 | | 長山
德奴
次陳家奴等三謝家奴等四韓家奴等五高□等六邊廷
第七種不也韓家 | 元 | 4 |
| 5 | | 將軍
子度傑
次 | 太尉
子
夫人
長子
山德奴
母
子
二
第三 | 5 |
| 6 | | 太尉
子
普加夫人
七子
漢耶夫人
子 | 可
真奴
人
記
補 | 6 |
| 7 | | 禮
元
高
可
汗 | 元
實封
大人 | 7 |
| 8 | | 國
事 | 大
或 | 8 |
| 9 | | 或
子
西
生
福
記
或
建
誌 | 或
元 | 9 |